



# こくろうよなご

第9号

2025年12月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



## 安全考動計画監視委員会開催

12月6日、地方本部事務所にて第一回目となる「安全考動計画監視委員会」を開催しました。各職能別協議会の代表者も含めて、各職種・職場における安全課題など議論してきました。

会議では、はじめに倉下執行委員長より「来年の1月24日は伯備線事故から20年目の日となる。安全の取り組みについては何ら変わるものはないが、一つの節目として安全を考える日にしていきたいと思う。事故から20年、何もしなければ事故の教訓も風化をしてしまう。夏頃には、会社幹部のパワハラ案件が新聞で大きく取り上げられたが、心理的に安全な職場になっていくのかしつかりと振り返り、明日からの活動に繋げていただきました。

### 何でも話せる？

はじめに、会社も強調する「心理的に安全な職場とは」について、職場の状況を出し合ってきました。

はじめは、参加者の多くが普段の職場において「心理的安全性について、そんなに意識をすることは無い」という雰囲気でしたが、少し掘り下げて議論すると「間違いがあると他の職場の人にも聞かせるように指摘をされる」「業務量が増えたが、皆が何とかやりくりする中で、自分だけ出来ないとは言いたくない」「機械化が進んで分らないことも出てくるが、皆が忙しそうにしていて聞きにくい」「上司がしていることに疑問を感じても、指摘をしづらいこともある」「等の意見も出てきました。「何でも話せる心理的に安全な職

## これって心理的に安全？！

場」には、課題も多くありそうです。

### 数値に現れない！

一方で、毎月の「安全の誓い」の提出や半期ごとの目標設定に負担感を感じることや「褒められることで伸ばそう」ということかもしれないが、何でも直ぐに表彰されることで妬みにでもつなれば、職場の雰囲気としても「どうなのか」など意見もありました。

また、「目の前の数字を求められるようになる、これまで積み上げてきたものについて無力感を感じる」等の声もあるようです。職場のあるいは個人の実績作りが優先され、数値に表しにくい安全やサービスへの意識が後退するのではとの懸念もあります。

### 安全に垣根なし！

その後、各職能別協

## 信頼と期待に応えるべく！！

12月8日、島根県分会事務所にて「浜田市議会選挙総括会議」を開催してきました。

「こくろうよなご」でも紹介した通り、10月19日投開票の浜田市議会選挙において、組織内候補の「小川稔宏」氏が見事、4選を果たされました。

米子地方本部として、6月に選挙対策委員会を立ち上げて以降、選対会議・チラシ配布・支持者カードの集約・電話戦術など精一杯取り組んで来たところですが、会議では選挙戦を振り

返りながら今後の課題など考えあって来ました。

選挙の勝因では、何といっても小川氏本人の3期12年の議員生活で培われた信頼と期待が上げられます。

その上で、後援会を中心としてしっかりと組織的な取り組みが出来ていることがあります。そして、石見労協・連合・退職者の会の皆様の支援が当選の原動力となりました。

地盤も看板もない小川候補が当選を積み上げられているのは、こうした地道な取り組みの積み重ねに他なりません。

人口減少・過疎化が進む中、地域の皆さんの声に真摯に耳を傾けながら、「持続化可能な公共交通」の構築など、安心して生活できる街づくりに奮闘しよう！

## 集まることが大事だ！

12月13日、出雲地区組合事務所米子電気協議会交流会を開催しました。

交流会は9年前より毎年出雲で開催し、職場状況等について交流を行っています。今年度は、組織人数が少なくなる中でも3人の組合員が集まり、自分たちの職場の状況や電気協議会の今後について議論を行いました。組合数が少なくなっても集まるのが大事だと、今後も米子電気協議会を継続していくことを確認しました。

